

# 中小企業景況調査報告書

平成 26年 7月～9月期 実績

(平成 26年 10月～12月期 予測)

調査実施時点：平成26年9月1日

京都府商工会連合会

## 《 目 次 》

1. 中小企業景況調査の概要 .....	2 頁
2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】 .....	3 ~ 4 頁
3. 各 業 種 の 景 況	
(1) 製造業の景況 .....	5 ~ 6 頁
(2) 建設業の景況 .....	7 ~ 8 頁
(3) 小売業の景況 .....	9 ~ 10 頁
(4) サービス業の景況 .....	11 ~ 12 頁

### D・I とは (景気動向指数)

この報告書の中で用いている「D・I 指数」とは、ディフュージョン・インデックスの略で、企業経営者の景気の波及度合いを表す指標として、利用されています。

#### 《算出方法》

前年同期に比べて、

$$\frac{\text{『増加』回答企業の割合} - \text{『減少』回答企業の割合}}{\text{(上昇・好転等)} \quad \quad \quad \text{(低下・悪化等)}} = \text{D・I}$$

D・I が、**プラス (+)** 値 .....

強気 (楽観) を表す。

D・I が、**マイナス (-)** 値 .....

弱気 (悲観) を表す。

例えば、売上高が前年同期比で、

『増加』回答企業 50%、『不変』回答企業 30%、『減少』回答企業 20% の場合、

$$\text{D・I 指数は、} \quad 50\% - 20\% = 30\%$$

となり、経営者の売上高に対する業況観が、強気気運であることを表しています。

# 1. 中小企業景況調査の概要

この調査は、商工会地域の産業の状況、地域の経済動向等について、四半期毎に変化の実態等諸状況を迅速かつ的確に収集把握して、経営改善普及事業の効果的な指導資料にするために、全国商工会連合会が実施する調査に連携し、府内の状況を取りまとめたものです。

調査要領、本年度の調査対象商工会、及び、調査回答企業数・対象業種別構成の内訳は次のとおりです。

## (1) 調査対象期間

平成26年7月～9月期を対象とした。

調査実施時点 ……9月1日（日）

調査期間 …… 8月23日（土）～ 9月2日（火）

## (2) 調査の方法

(イ) 商工会の経営支援員の訪問による面接調査とした。

(ロ) 調査対象商工会の選定は、管内ごとの市町村人口を勘案し、又、調査対象企業の抽出は、各業種・規模等の有意抽出法とした。

## (3) 調査対象商工会

京丹後市商工会、伊根町商工会、京丹波町商工会、南丹市商工会、京北商工会、長岡京市商工会、大山崎町商工会、井手町商工会、宇治田原町商工会、木津川市商工会、精華町商工会、南山城村商工会

(計12商工会)

## (4) 対象業種別構成 及び 回答企業数

業 種	調査対象 企 業 数	構 成 比	回答企業数	回 答 率
製 造 業	40	22.0 %	38	95.0%
建 設 業	32	17.6 %	29	90.6%
小 売 業	49	26.9 %	47	95.9%
サービス業	61	33.5%	59	96.7%
【 合 計 】	180	100.0 %	173	96.1%

## 2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】

### 〈概要〉

#### 『建設業で改善が見られるも、懸念材料が残る』

売上高D・Iは、前期比で全産業▲11.7ポイント(前期▲10.5ポイント→今期▲22.2ポイント)と悪化した。内訳として製造業は、0.1ポイント(前期▲8.2ポイント→今期▲8.1ポイント)の改善、建設業は、7.3ポイント(前期8.0ポイント→今期15.3ポイント)の改善、小売業は、▲14.9ポイント(前期▲19.2ポイント→今期▲34.1ポイント)の悪化、サービス業▲24.7ポイント(前期▲12.4ポイント→今期▲37.1ポイント)の悪化となった。

一方、採算D・Iは、前期比で全産業▲6.4ポイント(前期▲22.8ポイント→▲29.2ポイント)悪化した。製造業は、▲10.8ポイント(前期0.0ポイント→今期▲10.8ポイント)の悪化、建設業▲16.3ポイント(前期▲7.7ポイント→今期▲24.0ポイント)の悪化、小売業は、5.6ポイント(前期▲40.4ポイント→今期▲34.8ポイント)の改善、サービス業は、▲8.6ポイント(前期▲29.7ポイント→今期▲38.3ポイント)悪化した。

製造業では、業績が改善の兆しが見えつつも、原材料の高騰や電気料金の値上げ等の懸念材料も多く、それらの高騰分を製品価格に転嫁できず、利益を圧迫している。

建設業では、産業全体での業績の改善が見られるものの建築資材の高騰や、慢性的な人材不足による採算悪化、受注の機会損失を生み出している。小売、サービス業では、天候不順による客足の鈍さが災いし売上の低調の要因となった。加えて公共料金の値上げも経営環境の悪化の一因となっている。

























#### 『全体の厳しさは、続く』

来期の予測D・I値は、全産業の売上高で▲4.9ポイント(今期▲22.2ポイント→▲27.1ポイント)の悪化、採算で4.8ポイント(今期▲29.7ポイント→▲24.4ポイント)の改善と予想される。

### 業種別景況指標

(景気の天気図)

〈見通し〉

	H25年		H26年			H26年
	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
製造業						
建設業						
小売業						
サービス業						

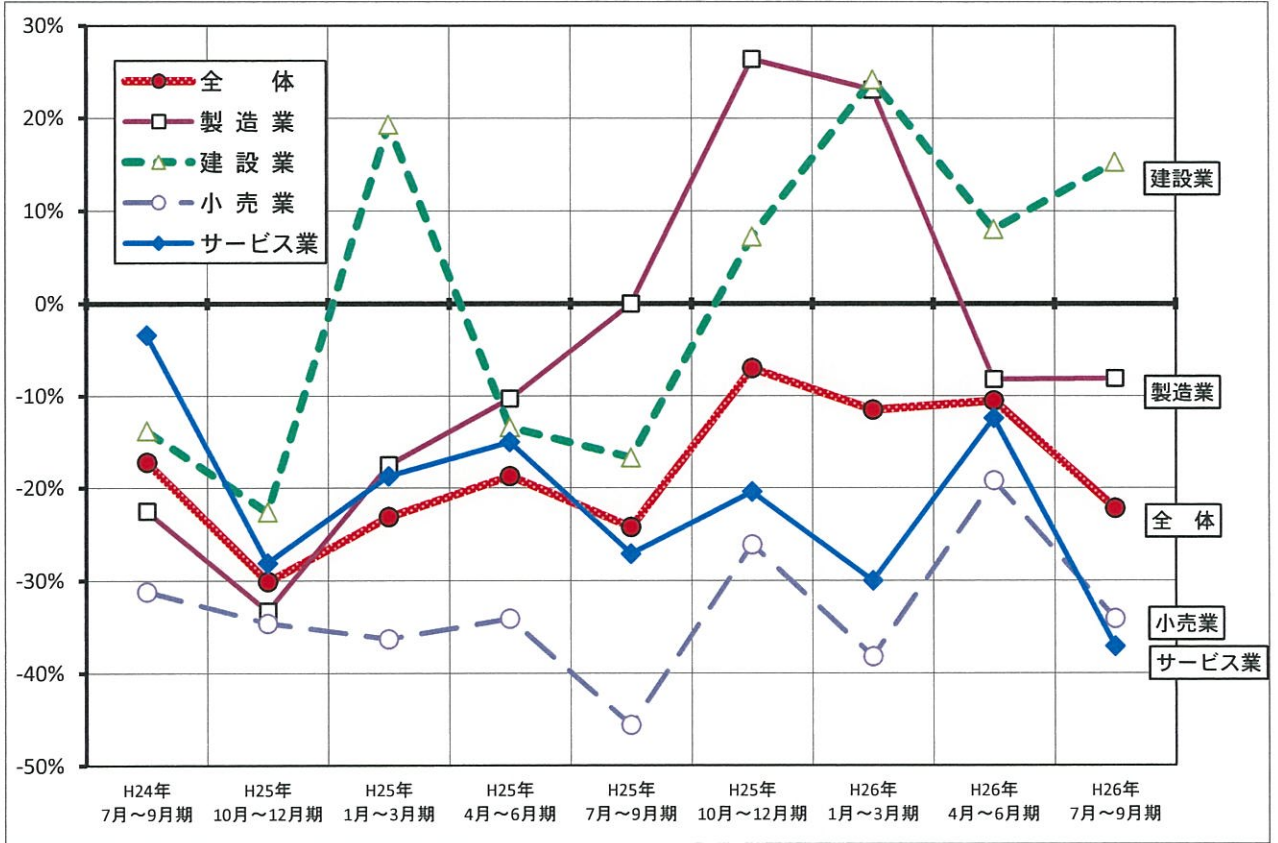
#### 天気図のよみ方

D・I	100.0 ～50.1	50.0 ～25.1	25.0 ～0.1	0.0 ～▲25.0	▲25.1 ～▲50.0	▲50.1 ～▲100.0
指標						
内容	特に好転	好転	やや好転	やや悪化	悪化	特に悪化

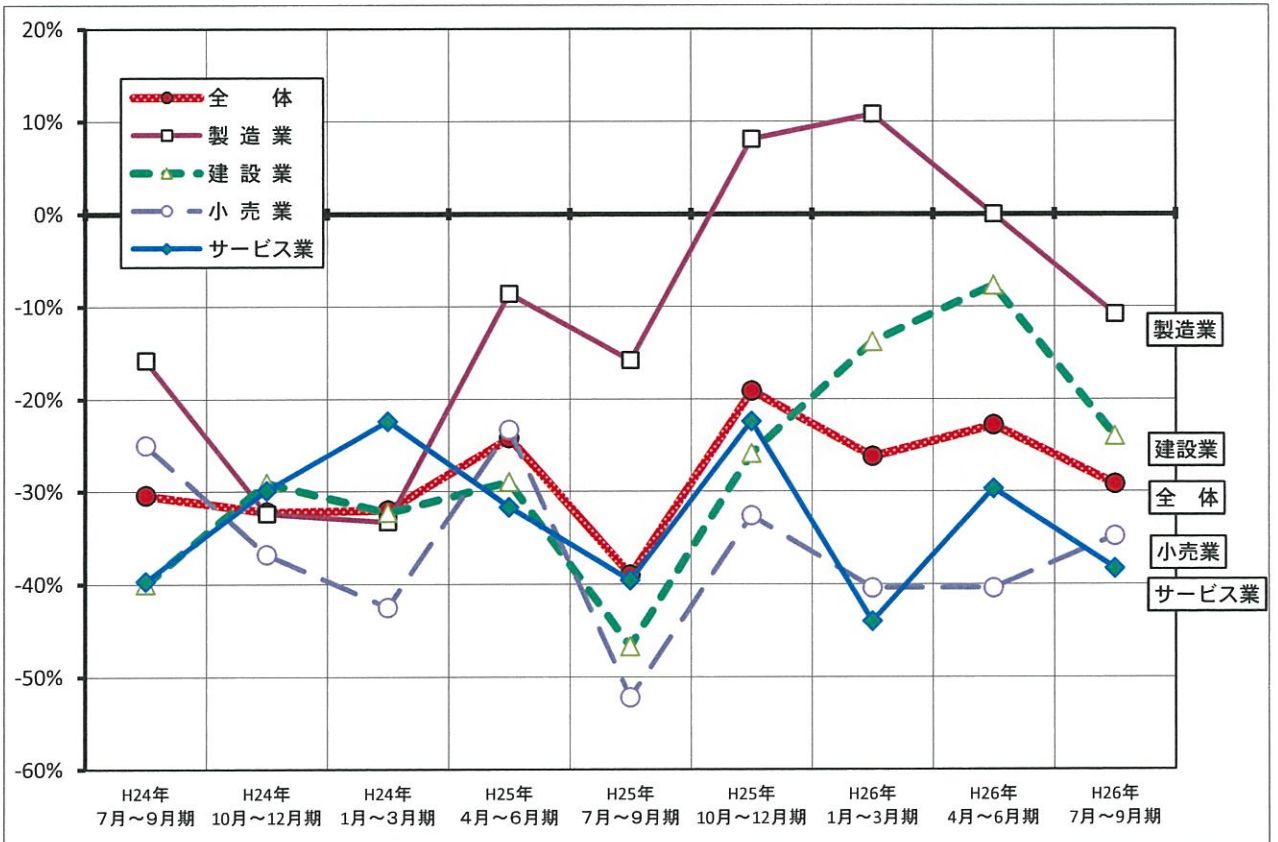
## 2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】

### 《売上高と採算の推移》

(1) 売上高 D・I (景気動向指数) の推移 — 前年同期比 —



(2) 採算 D・I (景気動向指数) の推移 — 前年同期比 —



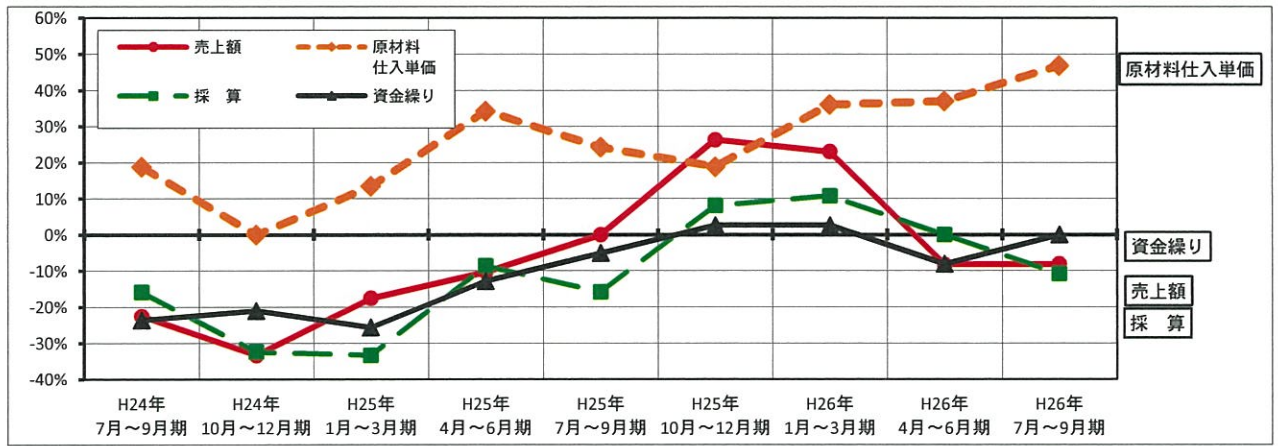
### 3. 各業種の景況

### (1) 製造業

D・I値は、前期と比較し売上額は、0.1ポイントの改善、採算は▲10.8ポイント悪化した。プラスチック・ゴム製品では、安価な海外製品との価格競争で製品価格を下げざるを得ない状況下で原材料の高騰が利益を圧迫する。また、老朽化した機械設備の更新を検討するも景気の先行き不透明な中、実施を躊躇する動きも見られた。

#### ① 製造業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 —前年同期比—

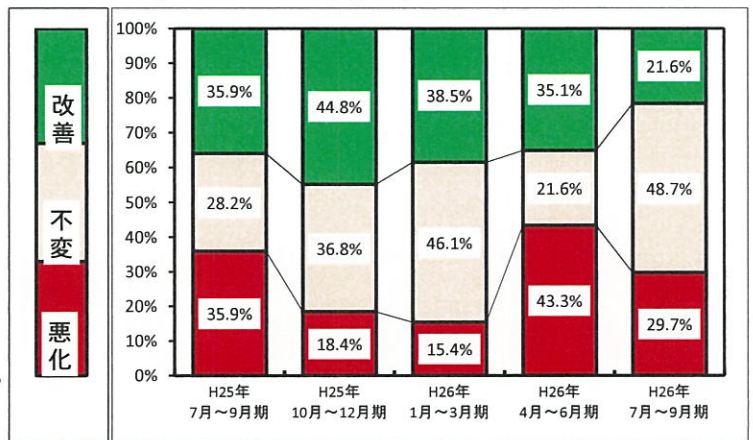
製造業	H25年		H26年			(予測)
	7月～9月期	10月～12月	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	H26年 10月～12月期
売上額	0.0%	26.4%	23.1%	▲8.2%	▲8.1%	▲27.0%
原材料仕入単価	24.3%	18.9%	36.1%	37.1%	46.9%	40.0%
採算	▲15.8%	8.1%	10.8%	0.0%	▲10.8%	▲13.9%
資金繰り	▲5.1%	2.6%	2.6%	▲7.9%	0.0%	▲13.5%



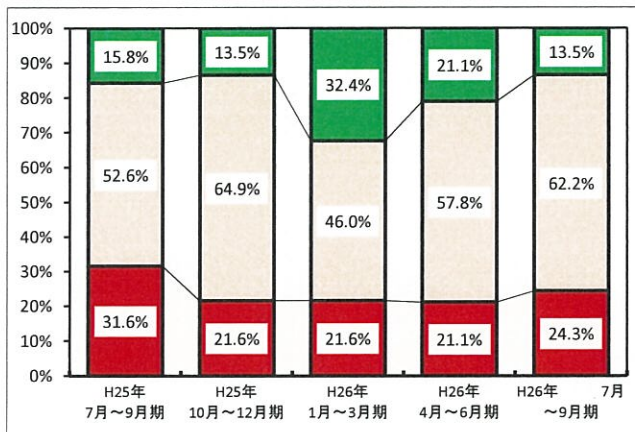
売上額 …… ▲8.1%  
(前期比 0.1ポイント改善)  
採算 …… ▲10.8%  
(前期比 ▲10.8ポイント悪化)  
資金繰り …… 0.0%  
(前期比 7.9ポイント改善)

売上額、採算、資金繰り共に、3期連続で改善度合いが減少している。プラスチック・ゴム製品では、材料費の上昇分を製品に転嫁できず採算が悪化、木材製品では、景気の先行き不透明感から設備投資を躊躇する動きも見られた。

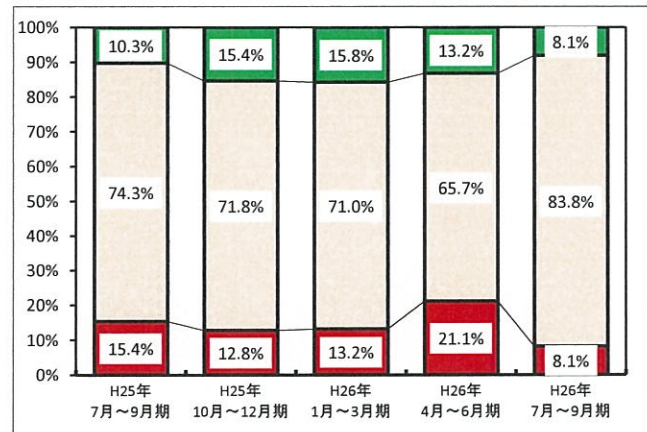
#### ※『売上(加工)額』の状況 前年同期比 (D・I 値)



#### ※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



#### ※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



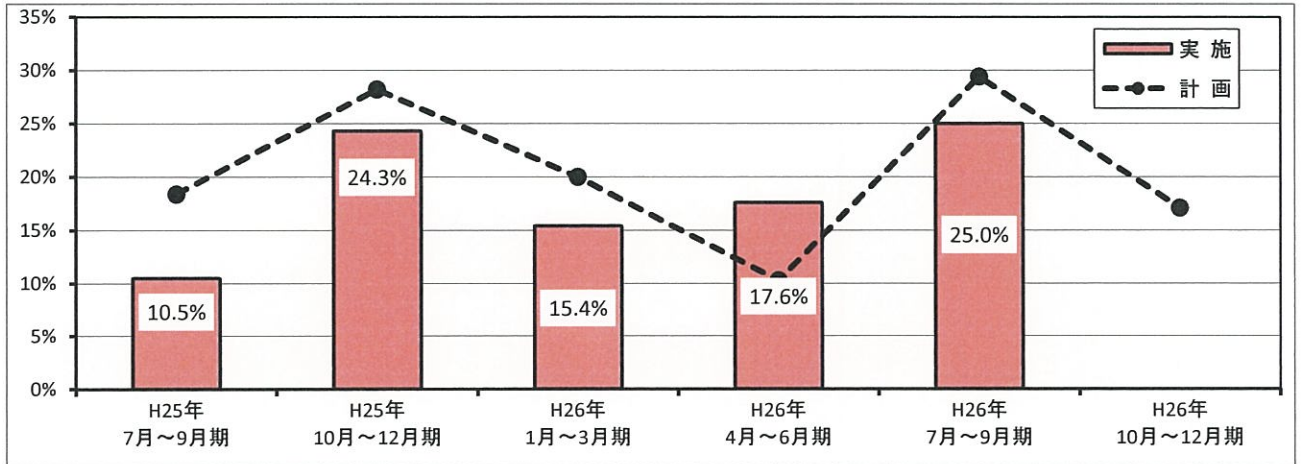
### 3. 各業種の景況

### (1) 製造業

#### ② 設備投資の状況(当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計)

設備投資の実施状況は生産設備で増加、土地、車両・運搬具で減少し、全体として前期と比較し7.4%増加した。来期の設備投資計画は、設備投資の大幅な増加を見込んでいるものの、全体として17.1%の投資計画にとどまっている。

製造業	H25年		H26年			(計画) H26年 10月～12月期
	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	
土地	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
車両・運搬具	0.0%	22.2%	0.0%	33.3%	11.1%	16.7%
生産設備	75.0%	44.4%	66.7%	50.0%	55.6%	100.0%
設備投資の実施	10.5%	24.3%	15.4%	17.6%	25.0%	17.1%

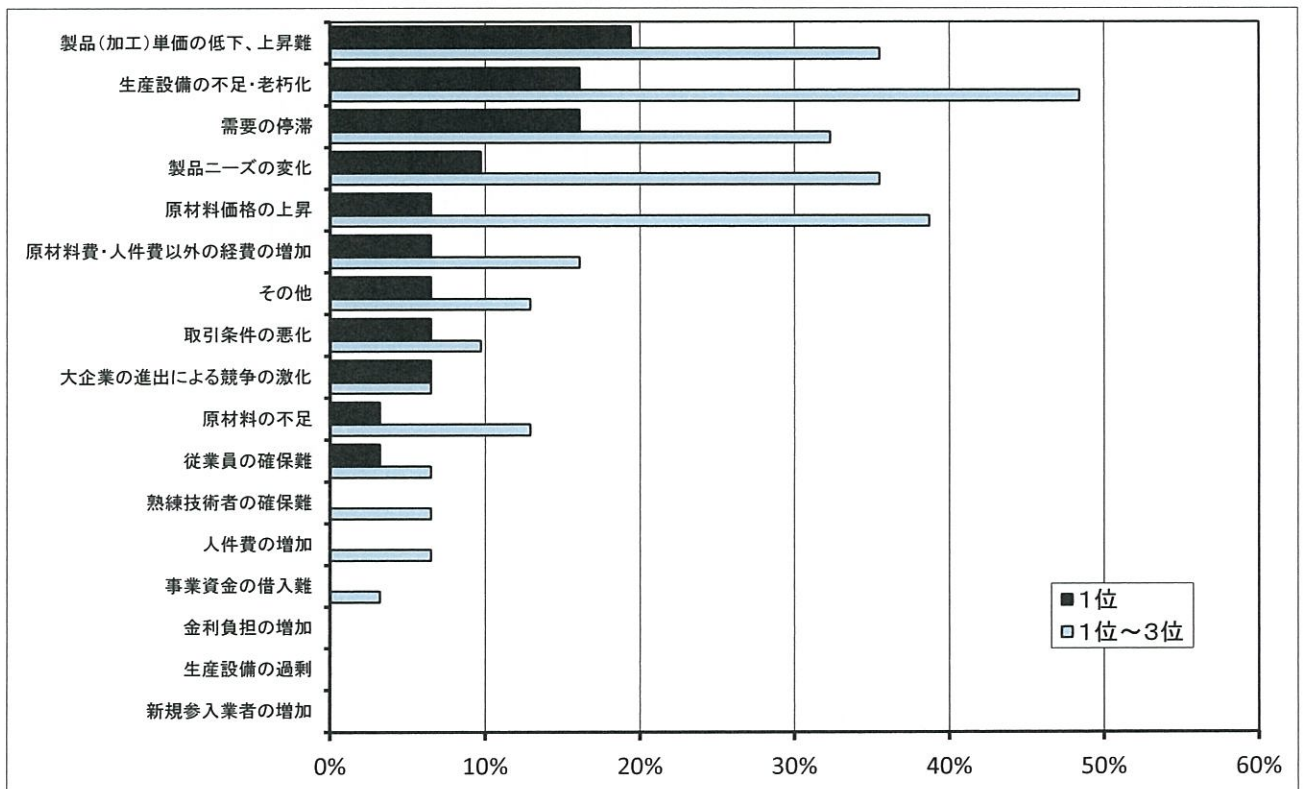


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

#### ③ 経営上の問題点

※ グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

前期同様、製品単価の低下が上位に挙げられた。また、原材料の上昇及び生産設備の不足・老朽化が上位を占め、利益の圧迫に拍車をかける。



(注) 問題点の1位に挙げた企業の割合

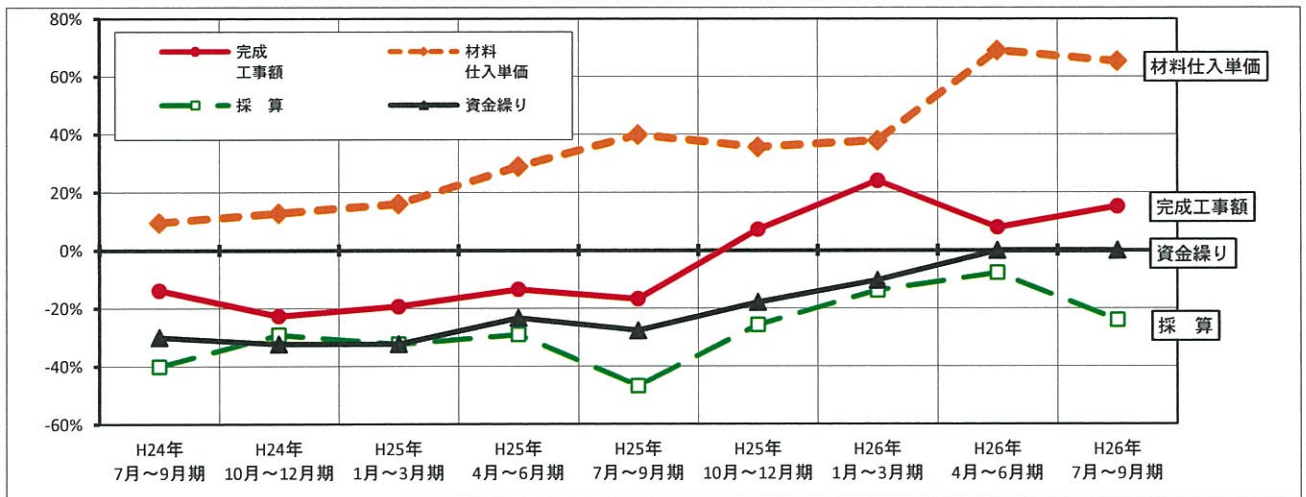
### 3. 各業種の景況

### (2) 建設業

D・I値は、前期と比較し完成工事額で7.3ポイントの改善、採算は17.0ポイント悪化となった。完成工事額、新規契約受注額は、全業種にわたり改善された。全体として業況は改善の兆しが見られるものの、建築資材の高騰や熟練技術者の高齢化、慢性的な人材不足による人件費の経営環境を悪化させている。

#### ① 建設業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 —前年同期比—

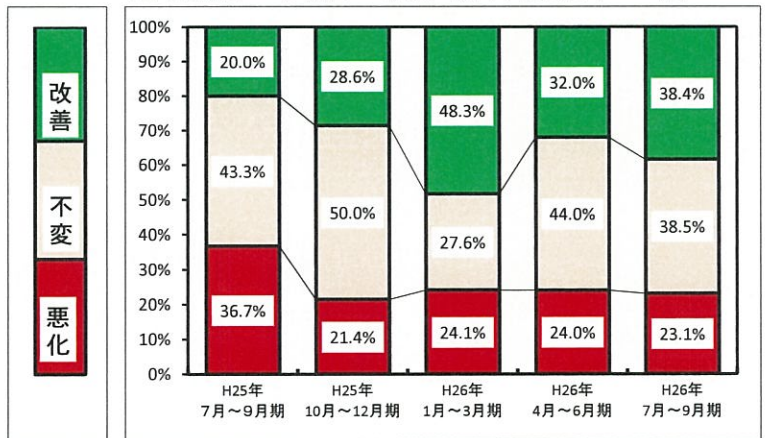
建設業	H25年			H26年		H26年 10月～12月 ▲15.4%
	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	
完成工事額	▲16.7%	7.2%	24.2%	8.0%	15.3%	▲15.4%
材料仕入単価	40.0%	35.7%	38.0%	69.2%	65.4%	50.0%
採算	▲46.7%	▲25.9%	▲13.8%	▲7.7%	▲24.0%	▲23.1%
資金繰り	▲27.6%	▲17.9%	▲10.3%	0.0%	0.0%	▲23.1%



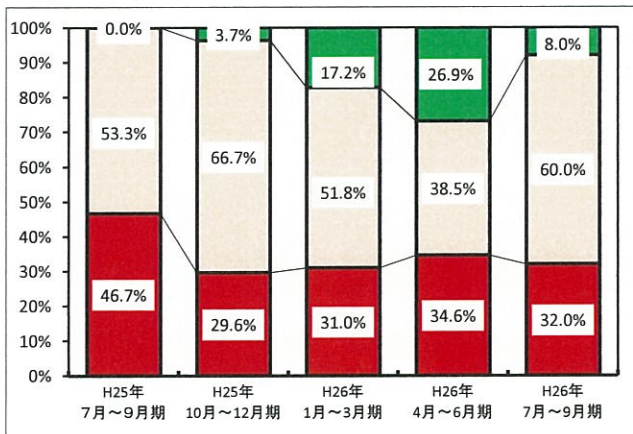
完成工事額・・・ 15.3%  
(前期比 7.3ポイント改善)  
採算・・・ ▲24.0%  
(前期比 ▲16.3ポイント悪化)  
資金繰り・・・ 0.0%  
(前期比 0.0ポイント不変)

完成工事額は、前期と比較し改善度合いが増加、資金繰りでは、4期連続での増加となった。工事受注の引合いも増加しているが、材料費、人件費の高騰が採算悪化を招き、資金繰りにも影響を及ぼしている。

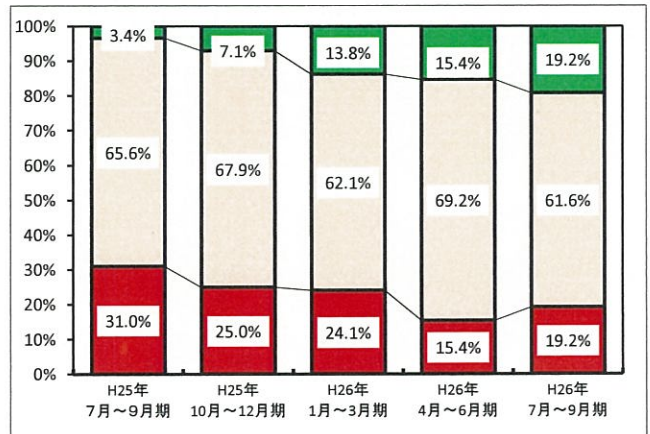
#### ※『完成工事額』の状況 前年同期比 (D・I 値)



#### ※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



#### ※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)





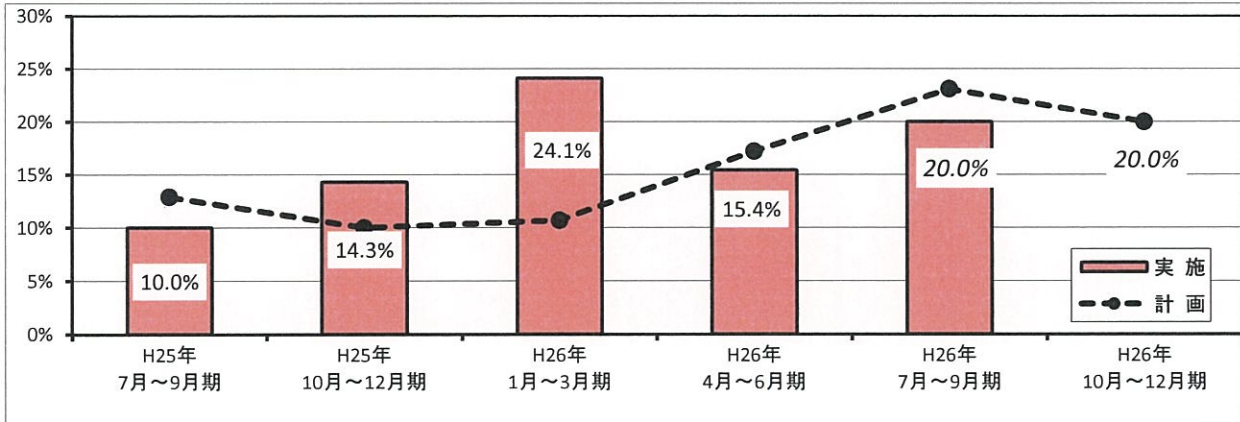
### 3. 各業種の景況

### (2) 建設業

#### ② 設備投資の状況(当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計)

設備投資の実施状況は、車両・運搬具、建設機械は増加し、全体として前期と比較し、4.6%の増加となった。来期の設備投資計画は車両・運搬具は増加を見込んでいるが、建設機械では減少を見込んでおり、全体として20.0%の実施計画と予測している。

建設業	H25		H26			(計画)
	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	H26 10月～12月
土地	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
車両・運搬具	66.7%	75.0%	57.1%	0.0%	40.0%	60.0%
建設機械	33.3%	25.0%	14.3%	50.0%	60.0%	20.0%
設備投資の実施	10.0%	14.3%	24.1%	15.4%	20.0%	20.0%

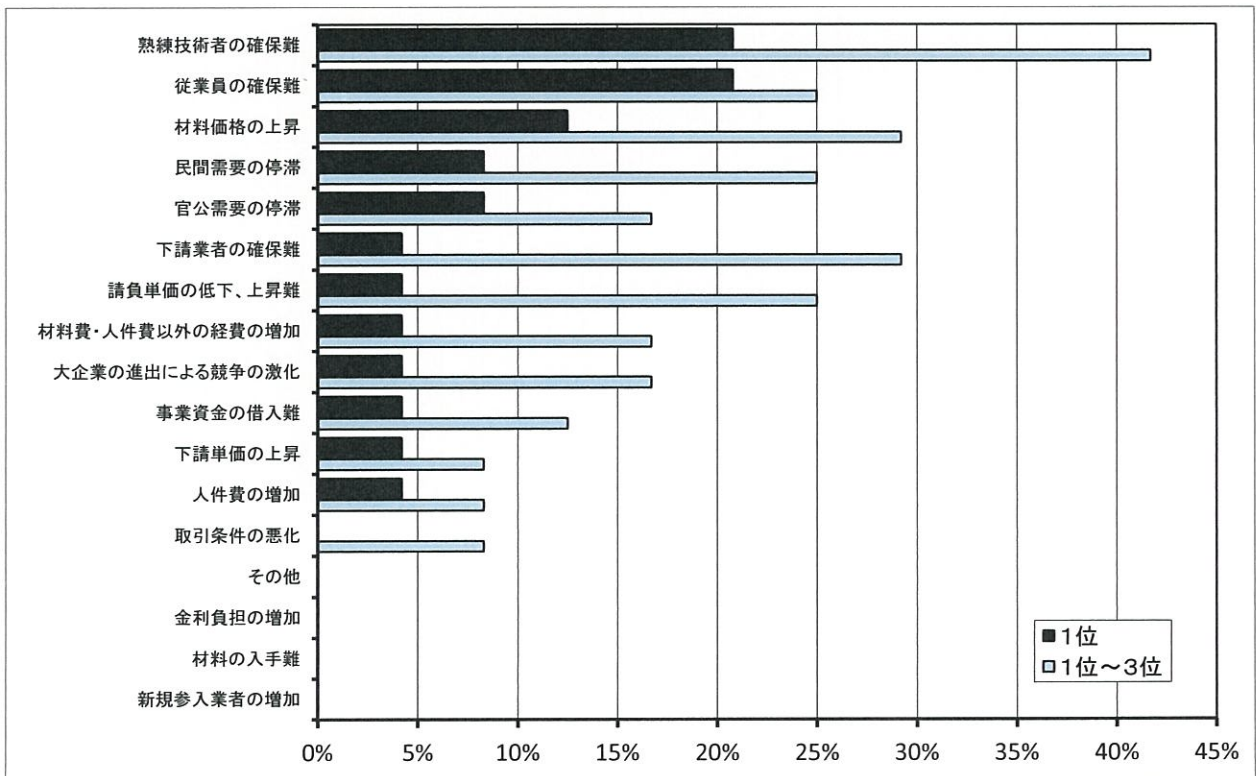


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

#### ③ 経営上の問題点

※グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

熟練技術者の高齢化や慢性的な人手不足による人材の確保難が上位を占める。慢性的な人材不足による新規受注額が増加しているにもかかわらず受注の機会を逸している指摘される声も聞かれる。



(注) 問題点の1位に挙げた企業の割合

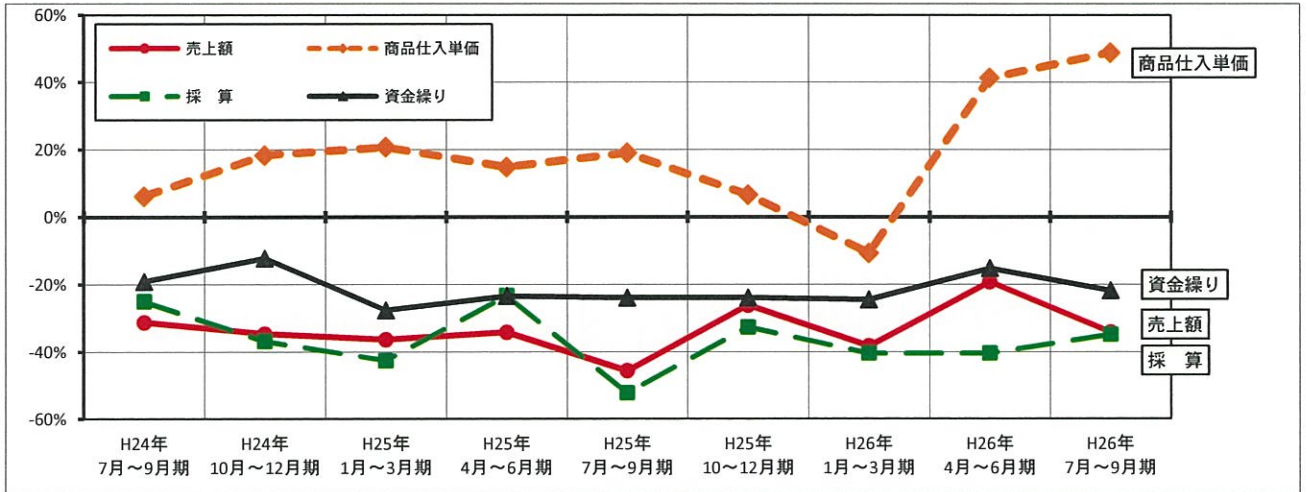
### 3. 各業種の景況

### (3) 小売業

D・I値は、前期と比較し売上額で▲14.9ポイントの悪化、採算は5.6ポイント改善した。多くの業種で今後予定されている消費増税での消費者の買い控えを懸念する声が聞かれ、人口の高齢化や過疎化、ワンストップショッピングを狙った大型小売店舗の進出により地元密着型の小売業での対応の限界が指摘された。

#### ① 小売業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 —前年同期比—

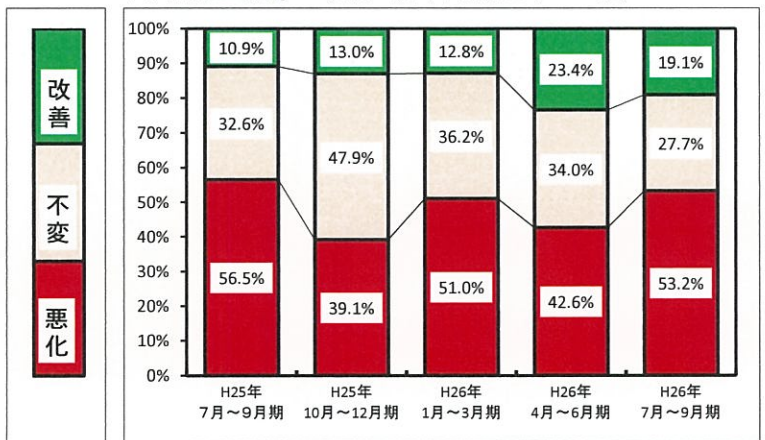
小売業	H25年		H26年			(予測)
	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	H26年 10月～12月
売上額	▲45.6%	▲26.1%	▲38.2%	▲19.2%	▲34.1%	▲46.6%
商品仕入単価	19.1%	6.7%	▲10.6%	41.4%	48.9%	26.7%
採算	▲52.2%	▲32.6%	▲40.4%	▲40.4%	▲34.8%	▲37.2%
資金繰り	▲23.9%	▲23.9%	▲24.5%	▲15.2%	▲21.8%	▲33.4%



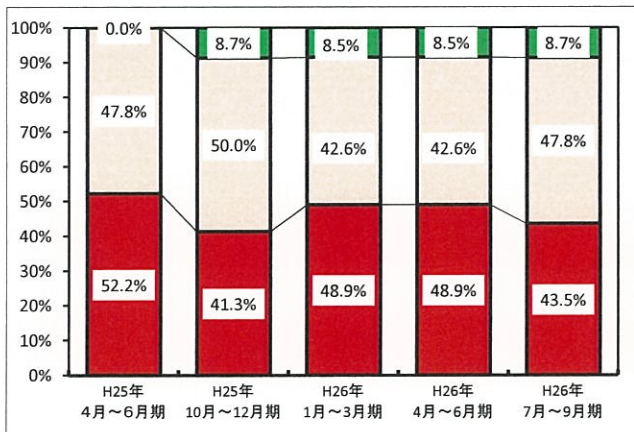
※『売上額』の状況 前年同期比 (D・I 値)

売上額 …… ▲34.1%  
(前期比▲14.9ポイント悪化)  
採算 …… ▲34.8%  
(前期比5.6ポイント改善)  
資金繰り …… ▲21.8%  
(前期比▲6.6ポイント悪化)

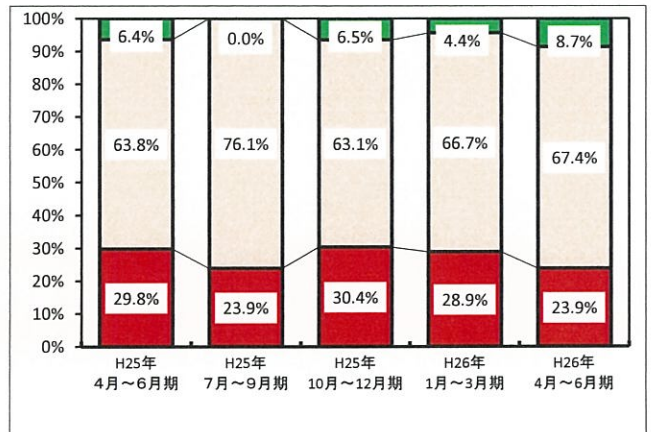
売上額は、前期と比較し悪化したものの、採算と資金繰りでは、何れも悪化度合いが減少し、若干の改善が見られた。食料品小売では、消費増税の反動減や今夏の天候不順により客足が鈍り、売上低下を招いた。



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



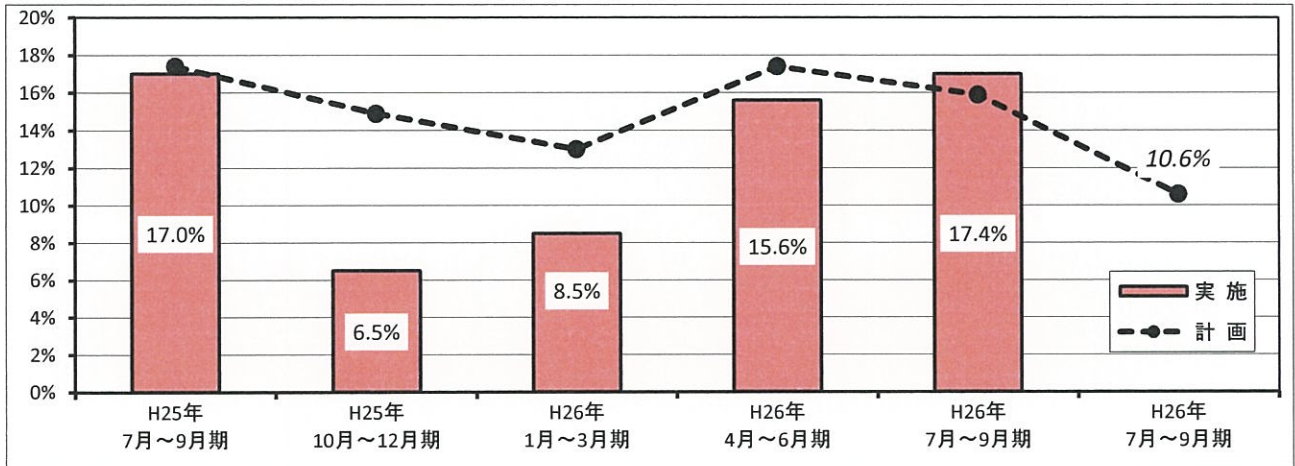
### 3. 各業種の景況

### (3) 小売業

#### ② 設備投資の状況(当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計)

設備投資の実施状況は、車両・運搬具、販売設備で増加が見られ、全体として前期と比較し1.4%の増加となった。来期の設備投資計画は、車両・運搬具、販売設備での減少が見込まれ、全体として10.6%の計画にとどまっている。

小売業	H25年		H26年			(計画)	
	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	H26年 10月～12月	
土地	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
車両・運搬具	12.5%	33.3%	25.0%	42.9%	50.0%	40.0%	
販売設備	25.0%	33.3%	50.0%	42.9%	62.5%	20.0%	
設備投資の実施	17.0%	6.5%	8.5%	15.6%	17.0%	10.6%	

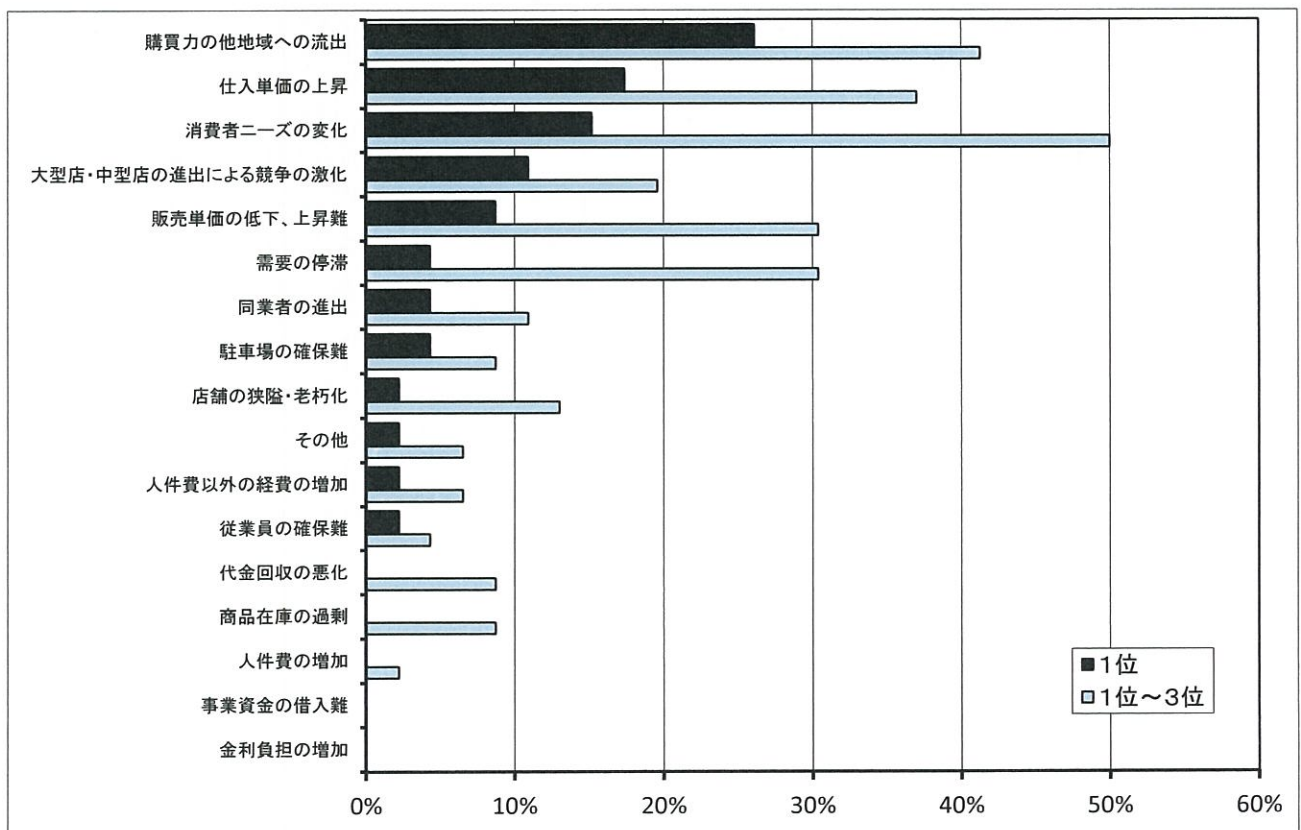


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

#### ③ 経営上の問題点

※グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

郊外型大型小売店舗の進出等による他地域への流出や、食料品小売業での原材料高騰による仕入単価の上昇や消費者ニーズの変化による売上減少や採算悪化が指摘される。



(注) 問題点の1位に挙げた企業の割合

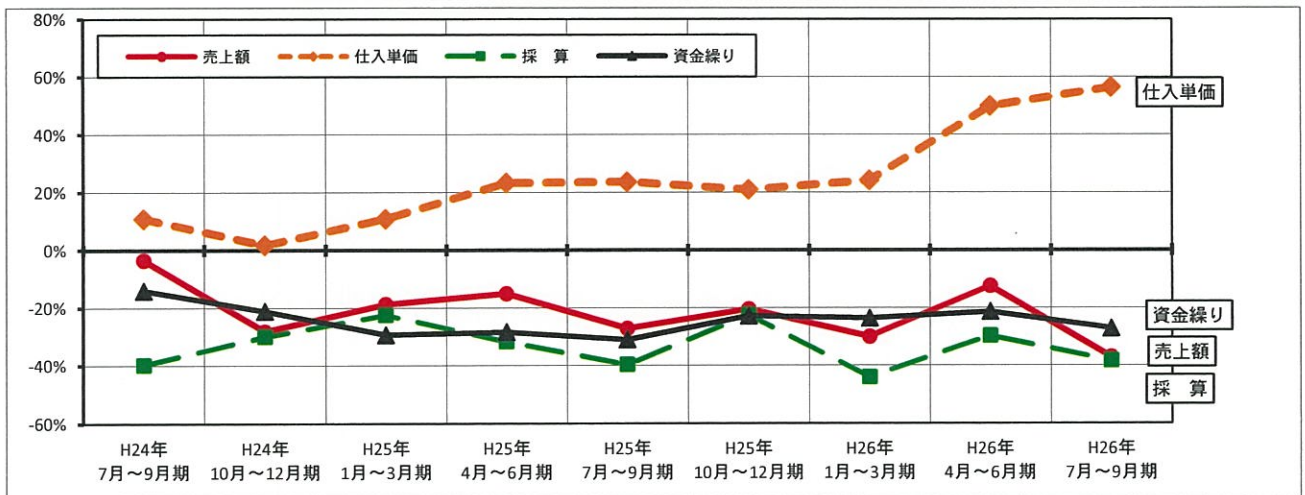
### 3. 各業種の景況

### (4) サービス業

D・I値は前期と比較し売上額で-24.7ポイントの悪化、採算は-9.0ポイント悪化した。小売業と同様に、多くの業種では、今後予定される消費増税による先行き不安を指摘する向きが多く、また、宿泊業をはじめとして、天候不順により客足が伸びず売上、採算を大きく左右される指摘も見られた。

#### ① サービス業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 — 前年同期比 —

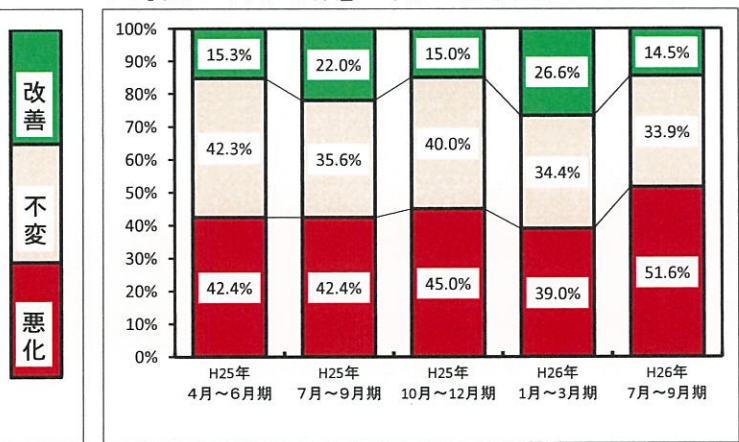
サービス業	H25年			H26年		(予測)
	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	H26年 10月～12月
売上額	▲27.1%	▲20.4%	▲30.0%	▲12.4%	▲37.1%	▲17.7%
仕入単価	23.7%	21.0%	24.2%	50.0%	56.5%	42.5%
採算	▲39.6%	▲22.4%	▲44.0%	▲29.7%	▲38.7%	▲22.0%
資金繰り	▲31.0%	▲22.8%	▲23.6%	▲21.3%	▲27.1%	▲20.3%



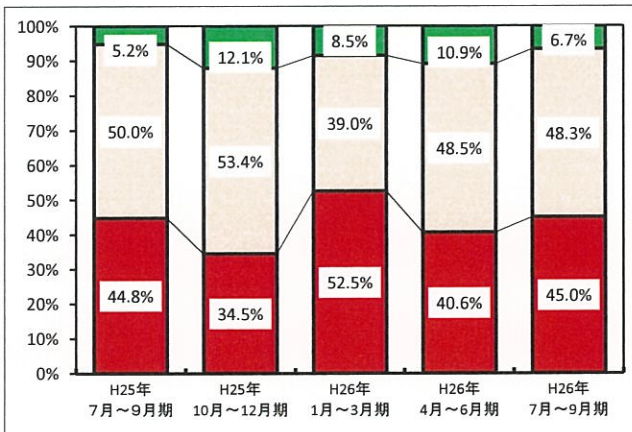
#### ※『売上(収入)額』の状況 前年同期比 (D・I 値)

売上額 …… ▲37.1%  
(前期比▲24.7ポイント悪化)  
採算 …… ▲38.7%  
(前期比▲8.6ポイント悪化)  
資金繰り …… ▲27.1%  
(前期比▲5.8ポイント悪化)

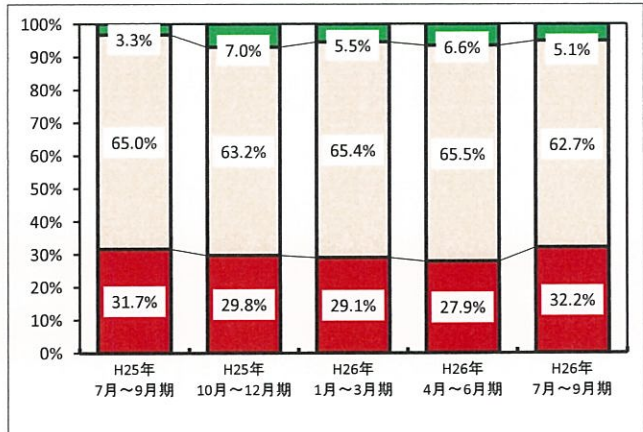
売上額、採算、資金繰り何れも、改善度合いが減少、悪化度合いが増加した。ここ1年は若干の増減を繰り返すが、あまり変化は見られない。



#### ※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



#### ※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



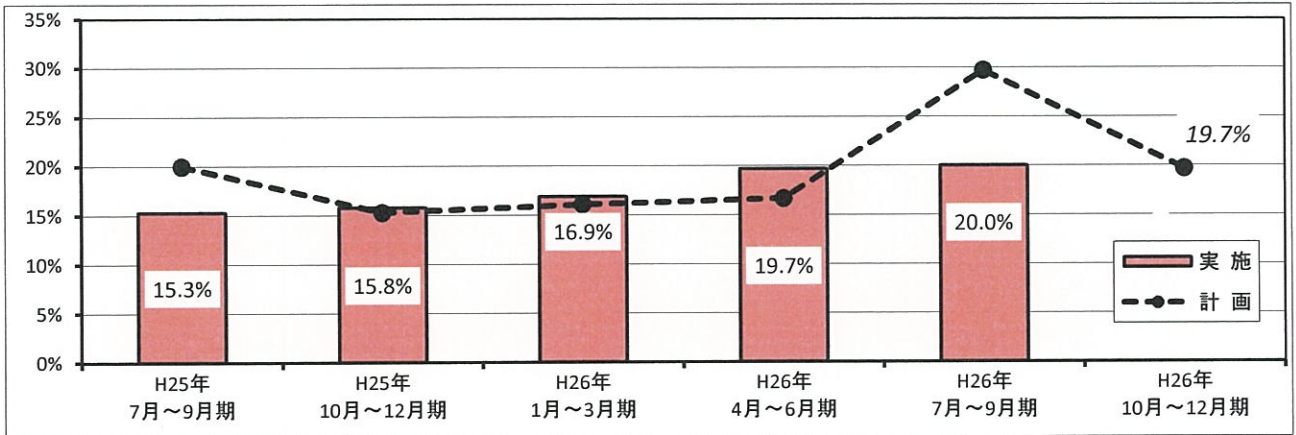
### 3. 各業種の景況

#### (4) サービス業

#### ② 設備投資の状況(当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計)

設備投資の実施状況は、車両・運搬具で減少、サービス設備で増加、全体として前期と比較し0.3%増加した。来期の設備投資計画は、サービス設備で若干の増加が見込まれるが、全体として19.7%にとどまっている。

サービス業	H25年		H26年			(計画)
	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	H26年 10月～12月
土地	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
車両・運搬具	11.1%	0.0%	0.0%	25.0%	8.3%	0.0%
サービス設備	11.1%	11.1%	40.0%	33.3%	50.0%	58.3%
設備投資の実施	15.3%	15.8%	16.9%	19.7%	20.0%	19.7%

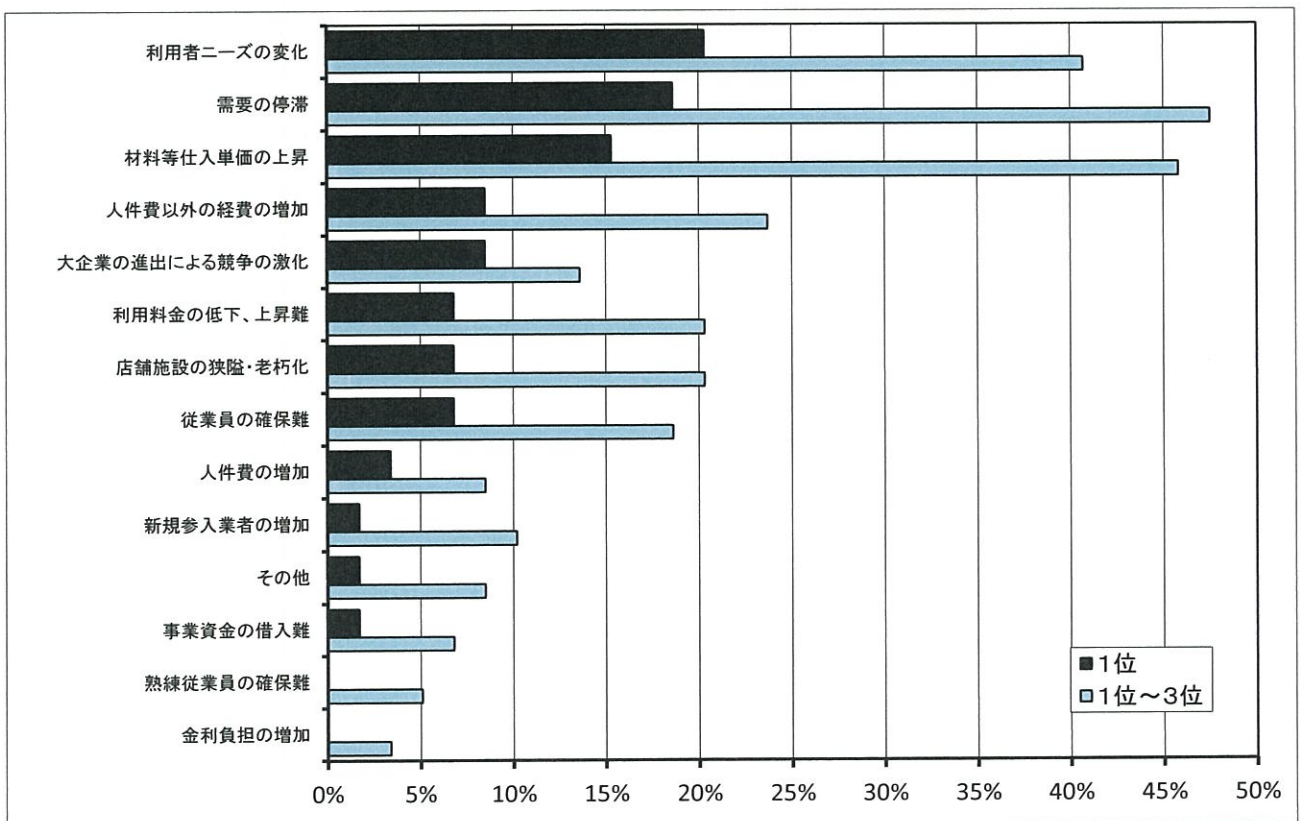


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

#### ③ 経営上の問題点

※グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

利用者ニーズの多様化により売上が減少する中で、公共料金の値上げ、他社参入による利用料金の低下が利益を圧迫している。



(注) 問題点の1位に挙げた企業の割合

## 京都府商工会連合会

615-0042 京都市右京区西院東中水町1 7番地  
(西大路通り五条下ル東側)  
京都府中小企業会館四階

TEL : 075-314-7151

FAX : 075-315-1037

e-mail : [office@kyoto-fsci.or.jp](mailto:office@kyoto-fsci.or.jp)